

現場見学会

山口県立宇部西高等学校 / 総合学科環境緑化系

角島の道路清掃

道路清掃活動 / 豊田支部

「クリーンアップ作戦」で、地域をきれいに!

平成16年6月25日、豊北町角島において道路周辺の清掃作業が行なわれました。これは、豊田建設業合同組合により、年に2度実施されるボランティア清掃で、今年で3年目になる活動です。

豊田建設業合同組合は、菊川・豊田・豊北の3町における12社、門田建設、國分組、酒井建設、(有)清水組、豊田建設、西島組、(有)花瀬組、ハナダ、ヒロ、(有)福田組、(有)豊栄建設、宮迫土木の建設会社で構成されており、毎年、菊川・豊田・豊北の地区の清掃を持ち回りでこなっています。



豊田町の角島に順番が回ってき

梅雨の時期ということもあり、前日の夜から雨が降り、当日の早朝には激しい雨が降り、この日の作業は延期になるかと思われるほどでしたが、少々の雨なら大丈夫と決行!

各社の社長を含む計24名が集合して、午前9時半から11時まで、1時間半の清掃作業が行なわれました。

角島は県道275号が中央に走っており、起伏の激しい地形。今回は、島の入り口に位置する瀬崎陽公園から角島展望台へと続く3.8キロの歩道を、人員を二手に分け、清掃区域の両端から中心に向かって作業を行いました。信号のない道なので車ならば歩きの距離ですが、清掃をしながら進むと、とても長いように思われまし



雨の中でのゴミ集め



不便だった角島の重要な交通手段となっています。豊田建設業合同組合には、角島内の橋の工事にも携わった業者もあり、今回のボランティア活動には「自分たちが作った環境を美しく守り、訪れた人々に気持ちよく過ごして欲しい」という思いが込められていました。

角島では、大橋が出来てから観光客による事故が数件発生しており、そのために反射板を増加させるなどの交通安全処置がされていました。今回の清掃でも、事故防止のため反射板や交通標識の掃除にも重点が置かれており、組合の方々が道路わきの反射板を一つ一つ丁寧に磨いている姿が印象的でした。



歩きながらの作業

現場の「生」に触れ、自分の可能性を見つける。

土木のことを学んでいる高校生に、建築業への理解を深めてもらおうと始められた「建設現場見学会」も今年で12年目。今回は宇部西高等学校の環境緑化系で学ぶ2年生10名と、土木コース専攻の3年生5名が参加した。8月25日の現場見学会の様子取材しました。



砂防工事現場での説明

まず初めに向かったのは、周南市大島小川で行われている砂防工事現場。この現場は道が細く傾斜が急だったためにバスが上られず、約1キロの坂道を歩くことに。立っているだけで汗が吹き出すような炎天下の中、実際に作業をされる方々の苦勞を思いながら全員が坂道を登りました。

災害の実態や砂防の役割、工事の概要などが話され、土砂を受けとめるえん提の構造形式である「ダブルウォール式構造」について詳しい説明がありました。現場で発生した土を利用でき、えん提表面の緑化が可能であるというこの構造に生徒の皆さんも興味津々で、資料と実際の現場を見比べながら熱心に話を聞いていました。また、日本のような山地、丘陵地の多い地形の国では、土砂崩れはとても深刻な問題。人の命、財産を守るために手遅れということがないよう尽くしている」という現場の方の言葉に頷く姿も見られました。

次に訪れたのは、周南市の徳山下松港周南大橋架設工事の現場。この港区は、化学薬品や鉄鋼等の企業が立地、集積しており、その海上輸送の合理化を図るために湾岸の改修計画が進められている地区です。周南大橋はそのふ頭との重要な



現場での迫力は、本物

も間近で見られる大規模な工事に目を輝かせていました。見学会後、生徒さんのひとりにお話を伺うと「現場を見るのはこれが初めて。本当に迫力がありました。今からの本格的な勉強や、今後のコース選択の参考にになりました。」と今後の意欲を充実し



周南大橋をバックに

た様子で語ってくれました。また引率の同僚環境緑化系総務部長・橋本先生は「ふだんは机の上だけで勉強しているの、生の現場を見ることはとても有意義だと思えます。学校で勉強したことを自分の目で確認し、納得、発見することで深い理解につながりますから。こういった現場見学会が、生徒の目標をたてる上で、一つの石になつてくれればと思います。」と、生徒ひとりひとりの顔を優しく見つめながら話していました。



現場を見る